

# 平成28年度 自己評価及び学校関係者評価書

秋田市立土崎小学校

## ◇本年度の学校評価をふりかえって

学校教育目標「夢をもち 人間性豊かに たくましく生きる子どもの育成」のもと、徳・知・体のバランスのとれた子どもがはぐくまれるよう、**教育課程全般では、子どもが主体**となって活躍する教育活動の充実に取り組んだ。**学習指導**では、話し合い活動を取り入れた授業づくりと話す・聞く力を育てる日常の取組を共通実践事項として、的確に考える力を育て学力向上を目指した。**心と体づくり**では、道徳の時間の充実、健康でたくましい体づくりや健康で安全な生活習慣の形成、社会的・職業的自立を促す体験的な活動の充実を中心に積極的に取り組んだ。また、積極的な**生徒指導**を推進するため、自己有用感の醸成につながる異年齢集団活動を全校体制で計画的に進めた。

児童は、夢や目標をもち、その実現に向けて努力することの大切さを理解し、目標に向かってがんばる意識を高めている。全校体制による共通実践や一人一人に応じた指導・支援の成果と捉えている。また、家庭や地域、幼保や中学校・関係機関との**連携**を重点的に進め、貴重なご意見を教育課程の編成や実施、情報発信等に反映させて、より充実した教育活動につなげることができた。今後も、家庭・地域の願いや期待等を踏まえながら、「開かれた学校・特色ある学校」づくりに努めたい。

## ◇評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	① 港っ子が主体となって活躍する教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢集団による「港っ子活動」を充実させるため班編制にも配慮し、話し合い活動を重視して高学年のリーダーシップを発揮させることができた。さらに向上心をもって主体的な活動を促したい。</li> <li>花まる集会等で目標や頑張ったことなどを話す場面を設定することで、達成感や自信をもたせる機会となった。</li> <li>全校児童が夢カードを掲示して自分の夢を意識させ、目標の実現に向けて努力することができるようにした。</li> <li>きらめき講演会やはまなす学習などで、地域や社会で活躍する方の夢の実現に向けた講話を聞き、日常生活で主体的に取り組もうとする意欲につながった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に活動する子どもの姿を共有し、指導の手立てを工夫する。</li> <li>日常の取組で話し合い活動を重視し、自分の考えを堂々と話せる力を付けていく。</li> <li>きらめき講演会を継続するなどして、キャリア教育の視点を大切にした教育活動の一層の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の主体的な態度を育成することはとても大切である。授業づくりを核として港っ子活動の充実や花まる集会、地域の方の講話などいろいろな場を工夫しており一人一人の児童の心に響く機会となっている。</li> <li>発表の機会を与えられている充実感、「夢カード」を掲示しての目標実現に向けた取組や子どもの主体性を重視した取組に好感がもたれ、すばらしい成果となっている。</li> </ul>
	② 一人一人の学び力を伸ばす学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話し合い活動を取り入れた授業づくり」と「話す・聞く力を育てる日常の取組」を共通実践事項として研究を推進することができた。</li> <li>学習アンケートでは、多くの項目で肯定的な結果であった。特に、「勉強が好きだ」「授業で学習することが楽しい」とした児童の割合が、二回目の調査で増加している。魅力的な課題の設定や発問の工夫による成果と考えられる。</li> <li>話し合いの場や目的、形態、手段を工夫することで自分の考えを積極的に話す子どもが増えてきた。反面、否定的に答えている子どもも1割ほどいる実態から、個々の支援の仕方が検討課題である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進部を中心に、成果と課題を整理し、共通実践事項を設定して全校体制で取り組む。</li> <li>学習指導部を中心に、学習の約束を確認し、基礎・基本の確実な習得を目指す。</li> <li>学習アンケートや諸調査を継続して行い、児童の実態把握に努める。</li> <li>TTや少人数指導による個に応じた指導を充実させ、児童一人一人の学力向上を目指し、全校体制での取組を進めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「聞く力・話す力」を育てる日常の取組として、実際の授業参観でも子ども同士の話し合いや自分の考えを書く場が設定されていてよかった。学年の発達に応じた取組を継続してほしい。</li> <li>TTや少人数指導で個に応じた指導がなされており、授業が分かりやすいとする子どもが多いのはすばらしい。</li> <li>多くの子どもが意欲的に取り組んでいる。先生方の熱意に感銘を受けた。</li> </ul>
心と体づくり	③ 道徳の時間を要とする道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>P.T.A授業参観やみんなの登校日の際に道徳の時間の授業を提示し、道徳教育に対する保護者の関心が高まるよう努力した。</li> <li>学年通信等で道徳の時間に関する情報を提供し、保護者から貴重な意見や感想をもらうことができた。</li> <li>学校内のルールやマナーなど、規範意識を守る大切さを実感できるように、継続して指導していくことが必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育推進教師を中心に、授業研究を積極的に行って、指導方法の工夫改善に努める。</li> <li>道徳の時間の授業参観を活用するなどして、より一層家庭と連携していく。</li> <li>内容項目と各教科の指導内容や体験活動等との関連が明確になるよう指導計画を吟味する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育に関する保護者の関心の向上に努力していることが普段の子ども達を見て感じさせられる。</li> <li>道徳だけで規範意識の醸成を図ることも大切だが、家庭と連携して理解を得られると教育効果が向上すると期待される。</li> </ul>

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
心と体づくり	④ 健康でたくましい体づくり、安全な生活習慣の形成に係る指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムチェックを実施して自分の生活を振り返るとともに、保健指導を併せて行うことにより、健康の保持増進について意識を啓発することができた。</li> <li>チャレンジタイムを継続して実施し、目標を設定して体力づくりに努めた。さらに意識付けをして効果的に進めたい。</li> <li>体力テストの結果から全校的に向上傾向にあるが、個人差の広がりや学年による課題も見られる。</li> <li>歯みがき指導を児童委員会の活動にも取り入れ、歯の健康について意識を高めることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して健康を保持できるよう、家庭の協力を得ながらよりよい生活習慣の形成を働きかける。</li> <li>持久走や体力テストについて経年比較を行い、目標をもたせて自己の体力向上に努める。</li> <li>教科や道徳、特別活動等との関連を図り、総合的・計画的に健康指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが将来、自分の健康保持増進のために習慣化していくことは大切である。どのような目標を立て達成していくのかそのスキルを経験していく機会を位置付けており、とてもよい。</li> <li>チャレンジタイムの設定と継続で運動能力の向上に繋がっているのは分かるが、もっと自由に遊べる時間の設定も必要と感じる。</li> </ul>
	⑤ 社会的・職業的自立を促す体験的な活動等の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中連携の一貫として行った「土崎未来の夢サミット」で、本地区の未来像を描くことで今後の取組の参考となった。</li> <li>地域や社会で活躍する方の講話を聞き、新たな目標設定や日常生活で前向きに取り組もうとする意欲につながった。</li> <li>「パーラー・集い」で地域の方と交流する機会をもつことで、地域の人に対する理解がより深まった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中連携での新たな取組を検証し、三校で協議していく。</li> <li>キャリア教育と各行事等の関連を一層明確にして年間指導計画の見直しを図り、系統的な指導に努める。</li> <li>キャリアアンケートを継続し、ねらいや取組について家庭・地域への広報を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中連携で地域に根ざした教育を推進することはとても大切である。役割の違いを見極め、体験させたいことを明確にして推進することは生き方を考える上で大切である。</li> <li>キャリア教育の拡充に積極的である。これからの取組に大いに期待している。</li> </ul>
生徒指導	⑥ 自己有用感を醸成する積極的な生徒指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>港っ子活動を充実させるため、港っ子タイムを設け、年間を通して自分の役割を意識させながら活動に取り組み、自己有用感の醸成につなげた。</li> <li>友達のがんばりを認める機会を学級で日常的に設定することで所属意識を持ち、諸活動について達成感や充実感を感じている。</li> <li>児童が自信をもって活動できるよう、全校体制で指導を行い、いじめや不登校の未然防止にも効果的であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のよいところ探しなど、自己肯定感や自己有用感をはぐくむ方策を工夫する。</li> <li>児童理解を一層深め、一人一人の活躍場面を設定し、指導の充実を目指す。</li> <li>縦割り班活動のねらいを理解させ、振り返りを大切にして自己有用感を醸成したい。</li> <li>規範意識を醸成するため様々な視点から継続的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ、不登校は社会の大きな問題である。未然防止の取組が効果的だとすれば、さらに人とのつながりを意識させてほしい。</li> <li>教師に認められ、友達にも受け入れられており、よい人間関係づくりの環境が構築されている。</li> </ul>
	⑦ 家庭・地域との連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の諸機関の協力を得ながら、学校保健委員会や防犯教室・情報モラル教室等を開催し、健康・安全に関わる研修や学習を進め、意識の啓発に繋がった。</li> <li>宵々祭、クラブ、交流会、講演会等で、地域の方の指導を仰ぎ、海洋環境保全学習、図書サポーターの支援等、地域の施設からもたくさんの支援をいただいた。</li> <li>見守りボランティア等の方々のご尽力で、児童たちの安全・安心が確保され、元気に登校することができた。</li> <li>校報や学年・学級通信、保健だより、HP等と併せて児童の活躍の様子を情報提供するとともに、各種行事やみんなの登校日等を広報して開かれた学校づくりに努めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に目を向け、地域の人材や素材を生かした教育活動のより一層の充実を図る。</li> <li>児童の安全・安心の確保のため、諸機関との連携を一層密にしていく。</li> <li>学校での様子・取組を適宜伝えて、さらに開かれた学校づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校での様子・取組について校報が各町内の班ごとに回覧され、学校と地域が身近になったような気がするという声があり好評を得ている。これからも行事やみんなの登校日などを広報してほしい。</li> <li>土崎という土地柄、お祭りを中心に育っていくと考えられる。祭り文化として縦横のつながりを重視する子どもに育つよう地域が望んでいることを教えてほしい。</li> </ul>
家庭・地域との連携	⑧ 幼保小、小小、小中の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫した考えに立った教育の課題研究推進校として、土崎中・港北小と連携し新たな交流活動も試みた。</li> <li>宵々祭、出店ワールドなどの行事に園児を招待し、小学校生活の楽しさを味わわせることができた。連絡協議会の実施や研修会への参加などにより、職員相互の交流を深めることができた。</li> <li>港北小6年児童とPAなどの活動を通して、交流を深めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中連携の在り方を検討し、より効果的なつながりを協議していく。</li> <li>就学前教育の理解に努め、入学後の円滑な学校生活を送ることができるよう、個別の指導についても情報交換を密にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校種のもっているねらいについて理解し合い、焦点化していく努力が求められている。情報を共有し共に育てる、見守ることが肝要である。</li> <li>小中連携を図り、環境の変化による心の揺れに気付ける雰囲気づくりをお願いしたい。</li> <li>小小の連携は、中学校入学後の緊密な関係に期待できる。</li> </ul>